

はじめに—久留里線プロジェクトの概要

鈴木 孝 男

本研究は「観光による地域活性化—千葉県を例に」をテーマとしているが、具体的には、利用客減少で廃線の危機に悩む JR 久留里線沿線の問題を取り上げて研究を進めることにした。そこで、最初に久留里線プロジェクトとして久留里線を取り上げた理由、プロジェクトの概要と進行状況を簡単に述べておきたい。

久留里線に関する情報を最初に提起したのはリーダーの鈴木であるが、鈴木も久留里線に関心があったわけではなく、たまたまある会合で千葉県総合企画部の幹部の方から「久留里線が乗客数減少で存続が厳しい」という話を聞いたのがきっかけである。

その後千葉県総合企画部と連絡をとって情報を収集し、現地調査をしながら沿線自治体の方々とも会合をもって問題の把握に務めた。その上で久留里線プロジェクトの進め方についてのおよその方向を定めた。

我々がめざしたのは、赤字ローカル線の活性化を観光という観点から問題解決策を探るという方法を用いた研究である。研究プロジェクトは2年間であったので、1年目は高大連携による地域活性化を中心に行い、2年目には持続可能な取り組み策の提案を行った。

活動の詳細な経緯は巻末の付属資料を参照して欲しいが、およその活動概要を整理すると以下ようになる。

1年目 高校での出張ゼミ（久留里線沿線の魅力発見）→『るるぶ』で表現

高校生による久留里線沿線の活性化と乗客増加策の作成→活性化策のコンペ実施

1年目の主な活動の記録

4月18日	キックオフミーティング（会場：木更津東高校、主な参加者：千葉県報道広報課、JR 東日本千葉支社、木更津市、君津市、木更津東高校、君津青葉高校、袖ヶ浦高校など）
4月30日 5月1日	久留里線沿線のフィールドワーク（プロジェクト演習履修学生、学部教員、君津青葉高校生徒など）
6月～7月	木更津東高、君津青葉高、袖ヶ浦高への出張ゼミの実施 高校生対象フォトコンテストの実施
8月2日	千葉商科大学において出張ゼミを踏まえた高校ごとの活動報告会&高校生フォトコンテストの表彰式
9月18日	JR 木更津駅で久留里線ラッピングカーの出発式に参加
9月～12月	久留里線車内で、高校生フォトコンテストと小学生絵画コンテストの優秀作品を展示
11月28日	久留里線夢づくりコンテストの実施（会場：木更津東高校、参加校：木更津高校、木更津東高校、君津青葉高校）

2年目 里山の魅力発見（シンポジウム）→里山を用いた観光開発の提案
ローカル線と古道歩き計画、実施

2年目の主な活動の記録

3月12日	里山シンポジウム（会場：千葉商科大学）
5月28日	プロジェクト演習履修者による古道歩きの実地踏査
11月23日	イベント「ローカル線と古道歩き」の実施。一般市民約40人が参加

1年目においては千葉県総合企画部と連携し、JR東日本千葉支社と久留里線沿線の3自治体も含めて活動を行った。そこに地元の県立高校3校（木更津東高校、君津青葉高校、袖ヶ浦高校）が加わり、行政、事業者、若者の3者によるローカル線沿線活性化の取り組みを行ったのである。地元住民の関係でも、久留里線活性化プロジェクト実行委員会が動いて、大学と共に上記各組織の連携活動を支援した。

もともとこの地域では、久留里線の利用客減少に危機感を抱き、以前から取り組みを行っていたが、そこには高校は参加してなかった。今回高校生が加わったことで、地域の将来を担う若者を巻き込むことができたことは大きな意義があったと思われる。

高校生の参加については、各高校に人間社会学部の教員・学生が出向いて出張ゼミを行い、高校生のこの活動への関心と参加意欲を高める上で一定の成果をもたらした。

2年目においては、里山シンポジウム等を通じて久留里線沿線の地域資源として里山があることを確認し、「ローカル線と古道歩き」というイベントを企画・実施した。久留里線と平行して走っている小湊鉄道とを古道歩きで結びつけ、歩くことで地域資源の発掘・活用を図ることを目指した活動である。

このイベントにおいても地元の高校が参加した。木更津東高校は、家政科の生徒が地元の食材を取り入れた弁当を開発し、それを地元の料亭が調理して当日参加者に販売した。また同じく木更津東高校家政科の生徒がスイーツを開発して、地元の菓子製造企業が製造して販売した。このほか、君津青葉高校の生徒達はイベント当日に久留里駅前でも古道歩き参加者を迎えて自分たちが実習で育成した野菜などを展示するなどして慰労した。君津高校写真部の生徒は古道歩きに同行して写真撮影を行った。

2年間にわたる活動を通して得られた成果にはどのようなものがあったのか。1年目には千葉県総合企画部が予算をつけて久留里線活性化に向けた取り組みを行った。我々の活動もそれと連携してフォトコンテストや夢づくりコンテストを行った。千葉県報道広報課からの報告によると、久留里線の乗客数は実施前と比べて25%増（久留里駅の乗降客数）

ということであった。その点から見ると一定の成果があったと見ることができる。しかし2年目に行われたJR東日本のダイヤ改正で久留里線は上総亀山～木更津間の直通運転が減らされるということになったので、成果が持続したといえるような状況ではないことがわかる。

ただ、高大連携の中で作り出された地元高校生の活動が継続しており、地道ではあるが久留里線への地元の人々の関心を維持する上で貴重な貢献をしていると見ることができる。過去の様々な例から見てもイベントなどの一時的な盛り上げだけでは地域活性化は持続しない。むしろ地元住民に犠牲を強いて「活性化疲れ」を引き起こす危険性さえある。あくまでも長期的な視点にたって、持続可能な方法で息長く取り組む必要がある。

その点で、今回我々が提起した「ローカル線と古道歩き」という考え方は、持続可能で効果が長続きする方法であると考えられる。このモデルはローカル線と古道歩きを組み合わせ、自動車に頼らずに地域の魅力を楽しむというもので、古道の整備を行うことで1年中だれでも楽しめるものである。来街者が自動車の利用でピンポイントの観光をして短時間の滞在で帰ってしまうのではなく、ローカル線の乗車と古道歩きによってゆっくり時間を消費しながら地域の隠れた資源を味わうことで、持続的な地域活性化の手法として有効であると考えられるのである。

私たちの活動は2年で終了した。しかし地元の自治体や高校など関係者に対して具体的な提案を残すことができたと考えている。今後、地元自治体の方々が、こうした取り組みを活用しながら、徐々にではあっても着実に地域の活性化を取り戻すことを期待している。